

ネコギギの飼育増殖について

単純に増殖して個体数を増やして
いくだけでなく、「遺伝的多様性の維持」や「野生復帰（川へ放流する）」
を考慮した飼育増殖の方法がとられて
います。

個体数を増やし、絶滅を回避する

員弁川水系の支流におけるネコギギ個体群の現状を調査し、
平成 15 年、飼育増殖を行うためのネコギギを保護しました。
現在、志摩市にある水族館「志摩マリンランド」で飼育増殖に取り組んでいます。

遺伝的多様性の維持

DNA 分析によると員弁川水系のネコギギは他の水系のネコギギと比べ、遺伝的多様性が低いことがわかっています。

員弁川水系のネコギギは個体数が減少していたことから、近親交配による繁殖能力の低下が心配されました。繁殖を試みるにあたって、できるだけ血縁関係の遠い個体同士をペアにして個体群の遺伝的多様性を維持することを目指しました。

飼育管理

将来の放流後に野外で生き残れるような個体を維持するため、飼育環境への適応をできるだけ小さくする工夫がされています。水槽内は繁殖に適した水温に設定し、積み石などをしてネコギギにとって適正な生息環境をつくります。ネコギギは夜行性なので夕

方から夜間に餌を与えます。餌は冷凍のアカムシ、季節によつては野外で採集した生き餌などです。また、水槽の側面に板を貼り覆うことによつて、ネコギギから人間の姿が見えないようにしています。

後藤さん「例えば、金魚のよう

に人間の姿を見ると餌がもらえない、というような習性がつかないよう考慮されています」
人工的な環境に慣れないように飼育管理されているのも、ここで産まれたネコギギを将来、野生復帰させるためです。

次世代のネコギギ誕生

「志摩マリンランド」での飼育増殖の実施から 4 年目となる平成 18 年、はじめてネコギギの仔魚しぎよが誕生しました。これまで産卵は観察されたものの、受精卵は得られず、孵化には至らなかつたりと、DNA 分析をはじめ繁殖への試みは大変困難なものでした。現在では、約 60 個体まで個体数を増やすことに成功しました。後藤さん「今はようやく繁殖に成功してきたところ。ネコギギ個体数の増加がこれからの試みです。」

将来の放流を実現化するには、さらに多くの個体数が必要になります。今後とも研究が進められ、個体数増加の取組は続いていきます。



▲ 志摩マリンランドの飼育用の水槽。ネコギギは石の下の隙間に潜んでいたりと、幼魚が親魚の下に隠れる姿も見られます。



◀ 志摩マリンランドで繁殖した生後 66 日の幼魚。体長は約 2、3 センチ。(撮影：志摩マリンランド)